

踏み跡 <My Mountains>

奥多摩	御前山から奥多摩湖へ(お月見山行)	No.115
-----	-------------------	--------

昭和43年10月5日

どこか手頃な山で満月の晩に月見山行をやろうという話が持ち上がった。場所は御前山ということになった。メンバーは恩田、石関、阿部、八十岡、小林の計5名。

仕事の都合で、あとから来て合流する石関以外は立川駅に集合。立川発19時08分、車内で夕食(握り飯)。運よく最終バスに間に合い、氷川から境まで歩かずに済んだ。

靄のような薄い雲で月は見えないが、どことなく明るさが感じられる。

境から栃寄への道は懐かしい道だ。まだ山を始めて間もない頃、やはり夜中にこの道を歩いた記憶がある。懐中電灯をつけて傍らの小草に脛を撫でられながら登った道も、今では採石用の幅の広いトラック道になっている。栃寄の集落を過ぎて山に入るにつれて頭上の空の明るさが増してきた。

昭和43年10月6日

0時を過ぎて10月6日になるや、白く明るく大きな月が姿を見せ始めた。海拔1100m地点と思われる。谷の集落の家々の屋根を照らし、我々の顔を照らし、その明るさは時々刻々増していくようでさえある。徐々に雲は切れて、月を取り巻く数々の星も姿を現し始めた。あたりの樹木や遠くの尾根が黒い影絵のように浮き出て、ひと声叫べば山彦も矢のように三往復する。

御前山 1時50分着。植えられたばかりでなよなよした苗木だったあの頃の唐松も、今では天を指してピンと立っていかにも力強く育っている。

昔懐かしい頂上を後に避難小屋へ10分足らずの下り。星、月、黒い大岳山の貫録。恩田は御岳山を登って来て合流する予定の石関を大ダオまで迎えに行った。その間を利用して我々残りの三人は、山の端に消える月を見た後避難小屋で一眠り。

5時 恩田と石関が到着。日の出の近い空はもう薄紫色に染まり始めている。全員そろったところで再び一眠りということになった。

7時 小屋の中に飛び込んできた小鳥の鳴き声で目が覚めた。日はすでに上り、あのきれいだった満月は夢だったのかと思うような朝の静けさ、それに天気の良いさ。

歩き始めるのが惜しいような気がするので、小屋の前の陽だまりで雑談することで意見一致。

11時45分出発。素晴らしい満月の晩を思い出しながら、小河内峠から奥多摩湖へ下山した。

